

守谷市公共交通基礎調査の結果

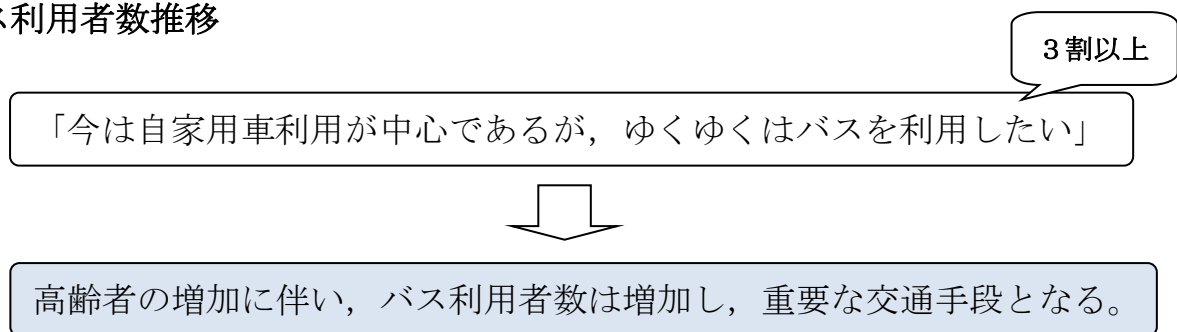
1 公共交通の課題

守谷市では、快適に暮らせるまちの実現を目指し、公共交通においては、誰もが快適に移動でき、環境にやさしい交通手段として公共交通網の再構築を図ることを目指しています。

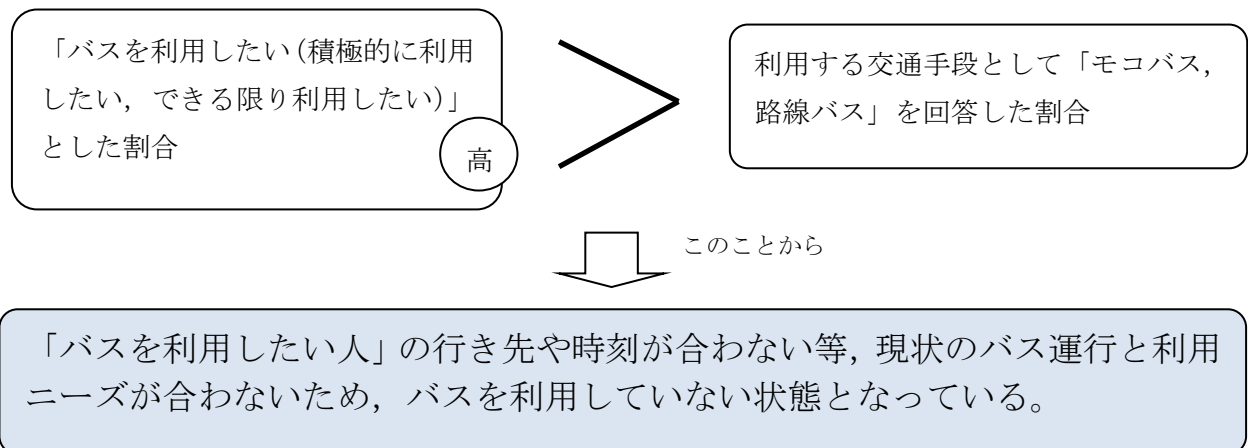
人口動向では、今後、人口減少、少子高齢化が進展し、老年人口（65歳以上）は平成47年（2035年）まで増加していきます。

アンケート結果から

○バス利用者数推移



○現状のバス運行と利用ニーズの比較



以上のことを踏まえ、バス利用に関する課題を整理します。

課題 1	バス運行の効率性を考慮したバスネットワークの再編 ・現状のバスネットワークは、市街地を網羅するネットワークとなっていますが、アンケート調査では、「運行本数が少ない」ことが、バスの課題としてあげられています。運行本数を増加させるため、ルートの距離を短縮し、運行回数を増やすなどの対策が必要です。 ・また、モコバスCルートの利用者へのアンケート調査では、運行ルートに、「どちらかといえば不満」、「不満」と応えられた方が約6割となっています。
課題 2	バスの利便性を高める運行方法の改善 ・バスの利用者数は、外出目的により利用する時間が異なります。各ルートが結ぶ主な施設を踏まえ、時間帯の運行本数を検討していくことが必要です。特に、鉄道駅でのバスの乗り継ぎに留意します。
課題 3	快適なバス利用環境の改善 ・バス利用において、バス待ち時間は、バス利用の障害となっており、快適な環境づくりが必要です。
課題 4	交通不便地域の解消 ・アンケート調査では、「自宅からバス停までの距離」は300m以内が最も多くなっており、徒歩圏300mとして、交通不便地域の解消を図ることが必要です。
課題 5	バス利用者の増加を目指す ・モコバスは利用者が少なく、利用者の増加を図ることが必要です。 ・環境負荷の軽減や、バスの持続を図るため、車利用からバス利用への転換を進めることが必要です。

2 現ダイヤの利用状況と分析

①モコバスAルート

通勤通学時間以外での利用が少ない。

いこいの郷常総や公園を連絡するルートだが、日常生活の施設（商業施設等）と連絡していない。

②モコバスBルート

通勤時間以外での利用が少ない。（100人／平日20日間以下）

乙子、高野小学校前など、集落を連絡するルートだが、利用者が少ない状況。

③モコバスCルート

商業や医療施設のあるb区間（守谷駅東口～守谷駅東口）の乗車人員数が多い。

市内の主な施設を結ぶ路線となっているが、1週の走行時間が130分と長距離のルートとなっている。